●第二中学校校舎の建て替えに関する意見交換会【令和５年１１月２９日（水）１８時半～　於：弘前市民体育館）】意見等一覧

	意見・質問	回答
1	第二中学校は学区の拠点となる施設である。洪水時の施設の防災性についての説明はあったが、それ以外の災害時の防災性はどのように考えているのか。	第二中学校は地震時の指定避難所になっている。また、土砂災害時などの指定緊急避難場所になっている。そのため、洪水時の防災性のみでなくこれらに対する防災性も備えた複合施設とする。洪水時の避難施設としての対応方針は引き続き検討する。
2	浸水後の施設の早期復旧あるいは教育活動の早期再開のために、設計段階でどのような対策が考えられるか。 基本構想策定の際に実施したアンケートの結果、新校舎の建設にあたり最も大切に考えることとして回答が一番多かったのは「防犯対策」であった。設計段階でどのような対策を考えているか。 弘前市学校施設個別施設計画では、築20年で予防改修を実施することとしている。今回の改築の設計段階で、将来の予防改修をどう見据えているか伺いたい。	まだ計画段階のため詳細は決まっていないが、一般的に考えられる対策としては、建設地の地盤面を高くすることが考えられる。構造体は最も強度が高いRC造を考えている。出入口に、耐震性を向上させる蝶番や浸水を防ぐための止水板を採用することも想定される。あとは、２階以上に避難スペースを設け、仮に避難が長期化した場合であっても、管理区画を工夫することで、上手に学校運営を続けられるように対応していく。 防犯対策は、一般的に、施設の出入口や校庭側・駐車場側に向けた防犯カメラの設置が考えられる。また、正門・裏門に電子錠とインターホンを設置することも想定される。さらに、東西南北に教職員や公共施設利用者が滞在する部屋を設けることで、大人の目が行き届き、生徒を見守ることのできる環境となる。 予防改修に関しては、現段階では、外壁の補強や美装化が考えられる。
3	１学年あたりの普通教室数は４部屋で足りるのか。	第二中学校区内（三省小、致遠小、西小、城西小）の児童数の将来推計から１学年あたり４部屋で足りるものと考えている。
4	改めて、整備基本構想の概要を知りたい。 これまでに実施したアンケート等のフィードバックに関して、今後どのように具体化していくのか考えを伺いたい。 第二中学校が浸水想定区域内にあることを踏まえれば、高台で身の安全を確保するため、例えば１階部分をピロティにすることなども考えられると思うが、どのような方針なのか。 特別支援教室を普通教室より多い５部屋設けることに関して、どのような方向性なのか。 公共施設の運用と学校運営の両立をどのように捉えているか。 全体を通して、校舎は生徒が一日の大半を過ごす施設であるため、生徒の生活に十分配慮して設計してもらいたい。 新校舎の建て替えと外構整備の総事業費はどの程度なのか。	整備基本構想は昨年12月に実施したアンケート結果をもとに策定した。基本方針として３つのテーマを設けている。１つ目は「心身ともに健康でいられる学校」で、防犯対策・事故防止対策による生徒の健康・安全確保や、教育相談の充実、災害時の安全確保、被災後の教育活動の早期再開が図られる施設とすることとしている。２つ目は「生徒一人一人の個性を育む学校」で、生徒の主体的な活動を支援する工夫を盛り込むこととしている。３つ目は「みんなに優しい学校」で、施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインデザインの採用、脱炭素社会の実現に資する設備の導入、生徒と地域住民の双方が使いやすい施設とすることなどを定めている。 アンケート結果のフィードバックについては、今後予定しているワークショップや意見交換会で設計案を示し、さらに意見を伺いながら、具体化していきたいと考えている。 浸水想定区域に立地していることを踏まえ、施設の配置計画に関して、水害発生時に生徒・教職員・公共施設利用者の安全確保が図られる施設の使い方、部屋等の配置とすることとしている。地域住民の身の安全の確保に関しては、指定避難所ではないかたちでの地域の皆さんの避難施設とすることについて市で対応方針を検討中である。 特別支援教室については、障がい種別や程度に応じて適正な学習環境を整える必要がある。現在、特別支援学級に通う児童が第二中学校に進学した場合を想定し、５部屋としている。 公共施設と学校の管理運営に関して、詳細は今後検討していくこととなる。石川小・中学校等複合施設の管理運営方法も参考にしながら検討を進めていく。 総事業費は、基本構想策定時の単価で、約43億円の見込み。

	意見・質問	回答
5	敷地スペースに限りがある中、すごく良い提案内容だと思う。工事が始まるとグラウンドの使用が制限されるのではないか。学校行事や部活動など生徒たちに影響のないよう配慮してもらいたい。	工事中は生徒の安全確保を図り、各活動になるべく影響を与えないよう配慮する。
6	特別支援教室を２階に配置した理由は。突発的に教室を抜け出したり、もしかしたら２階から飛び降りる生徒もいるかもしれない。トイレやカームダウンがすぐ近くに配置されているのは良い案だと思う。 設備に関して、手洗い場の自動水栓やトイレの自動洗浄、人感センサーによる照明の自動点灯・自動消灯など、「自動化」が標準仕様となりつつあると思うが、生徒への教育・しつけの観点ではあまりよくないことなのかなと思っている。現時点でこれらの設備の導入をどう考えているか。 猛暑による影響で、多くの学校で体育の授業や集会活動が制限されることがあったようだ。もし体育館に冷房設備を設置しないのであれば、学年ラウンジなど生徒や地域住民が集うことが想定される場所に冷房設備を設置してもらいたい。	特別支援教室の２階への配置はインクルーシブ教育の実現を図るもの。今後、１階への配置も含め、検討を重ねていく。 設備は今後、詳細な検討を進めていく。現状、市立小学校のほとんどが感染症対策の観点でトイレは自動水栓になっている。 体育館への冷房設備の設置は想定していない。今回の校舎建て替えにあたり、普通教室だけでなく特別教室にも冷房設備を設置する予定である。